

第8回埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和2年6月3日（水） 17：00～18：30
2. 会場：危機管理防災センター本部会議室
- 3 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦	川崎市健康安全研究所 所長
金井 忠男	埼玉県医師会 会長
川名 明彦	防衛医科大学校 教授
坂木 晴世	国立病院機構西埼玉中央病院 専門看護師
松田 久美子	埼玉県看護協会 会長
光武 耕太郎	埼玉医科大学国際医療センター 教授
- 4 県側参加者

大野 元裕	知事
森尾 博之	危機管理防災部長
関本 建二	保健医療部長
星 永進	保健医療部 参事
本多 麻夫	保健医療部 参事
岸本 剛	衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 施設の使用停止の協力要請の一部緩和について

- 県内では新規感染者数が抑え込まれていることなどから、フィットネスやカラオケなどの業種については、感染防止対策を徹底することを前提に、徐々に再開していくことはやむを得ないのではないか。
- ガイドライン等を各々の業界で作成し、これに従って各店舗や施設がしっかりと実践することが必要である。

イ 自宅療養の体制強化について

- 原則療養施設に入ってもらいたいが、国が示した感染のピークに対応できるよう、医師や保健師の確保をはじめ、事前に自宅療養の体制を整えておくべきではないか。

ウ 退院基準及び濃厚接触者に対する検査等の見直しについて

- コロナウイルスは（発症から）10日後くらいから感染性のあるウイルスとして分離され難しくなるとの知見があるので、仮にその時点で陽性だったとしても感染性は非常に低い。
- 最終的には、症状や経過などを総合的に判断するべきではないか。

エ 医療物資支援に係る現状と今後の課題

- 医療機関からは、N95 マスクが依然として入手しづらいという声が多い。
- 物資の在庫に関するアンケート調査において、未回答の医療機関からも回答をもらわなければ、過不足数が正確につかめないのではないか。
- 物資の品質管理について、様々な品質の物資が届いていたため、品質を確認したうえで備蓄する必要があるのではないか。
- N95 マスクはサイズや形が様々であり、各人に合ったものを使ったほうが良いため、数種類のマスクの備蓄があったほうが良い。
- 感染が拡大した場合、医療物資が手に入りづらくなるため、3か月分程度の備蓄が必要ではないか。

- 高齢者施設・障害者施設については、手指衛生を徹底することやマスクを適切に着用することでクラスターを発生させないことが大原則であるが、クラスターが発生した場合に必要な物資を提供できるようにしておくことが大切ではないか。